

萩にあしあと残そうよ

「計画休務（自宅待機）の日々」

令和2年(2020)
5月1日発行
—第7号—



道永の滝（裏面参照）
～同じ滝に見えませんか～

「日々の暮らし」

「仕事はどうだい？」にも記していますが、新型コロナウイルス感染が拡大する中、雇用と収入が維持された上で自宅待機という措置を受けています。誰と比較するものではないかもしれませんが、私は恵まれています。だからこそ、規則正しい生活で自己管理をすることが使命（仕事）だと思い、生活リズムを崩さず、弁当作りも続けています。活動の制限はあっても安心して暮らせるのだから、苦痛や我慢ではなく、ありがたい毎日です。

とはいえ、一定の気分転換や屋外での活動も必要です。そこで隣室の僚友と相談し、駐車場で縄跳びなどを始めました。縄跳びは運動効果が高いらしいですね。かつて熱心に跳んでいた時期があったので、少しずつ連続回数を増やしています。もう一つはサッカーボールのリフティング。これは子供の頃から大の苦手。まだまだ悪戦苦闘が続いています。また、花や新緑を見ながら、散歩やランニングを楽しむことにしています。

「あしあとノート」

◆萩八景遊覧船を堪能◆

三月から一月まで運航している萩八景遊覧船。船頭さんの説明を聞きながら、川や海から城下町風情を味わうことができます。四月四日、桜の開花時期に合わせた特別なコースに参加し、水の上での花見を楽しみました。



期間限定の「桜観賞コース」
贅沢な眺めを堪能！

この船頭さんは京都から移住されたそうです。マグロを釣り上げるのが夢だとか。

◆萩反射炉と桜と列車◆

四月五日の朝、コインランドリーに衣類の洗濯を任せている間に、ふと思いついて萩反射炉の桜を見に行ったりと、三脚を立てた男性が列車の通過を教えてくれました。話をしながら待つこと数分、絶好のタイミングで写真を撮ることに成功しました。



世界遺産と桜と山陰本線
千載一遇とは大げさかな？

◆指月山の萩城詰丸跡◆

かつて萩城の詰丸が築かれていた指月山。麓から登ると約二〇分で山頂の要害へたどり着きます。石垣や一部の土塀のほか、貯水施設などが残っています。このほど、初めて足を運び感激しました。



詰丸の矢倉門付近。
今後、色々調べていきます！

「自由気ままな歌日記」

小学の頃教わりし天突きの体操をして部屋にこもれる
(四月一三日)

読書終え頭に浮かぶ
チョコレート買いに行きたや口に入れたや
(四月二〇日)

ベランダに羽休めせし
つばくろの束の間に
去るさまを見て居り
(四月二二日)

「仕事はどうだい？」

新年度を迎え、岸田商会には三名の新人が入社しました。初めの数日間には研修が行われ、なんと私も一コマ講師を務めることに。堅苦しくなく経験談でも語ってくれば良いとのことだったので、郷里の話や学職歴、そして萩に住みこの会社勤めるに至った経緯などを話しました。

一方、実務面では、四月に入り社員の休業措置が始まりました。各々週二〜三日休んでいます。私の場合は、緊急事態宣言の対象が全国になったことを受け、五月八日まで自宅待機となっています。

営業職のため日常的な事務仕事がなく、連絡のつく体制をとっていれば過ぎ方は自由です。手元にある本を読んだり、調べ物をして書き物をしたり、ケーナを吹いてみたりの日々です。

なお、出社せずとも当面給与は補償してもらえるそうです。その先のことは分かりませんが、与えられた状況下で、モチベーションを維持していきたいと思っています。

〔萩に関する自由研究〕

『萩市郊外の水辺を訪ねて』

人との接触が少ない場所を選んで、適度に体を動かすことを目的として出かける。そうとはいえ、いささか自分勝手だろうかと迷いましたが、以前から気になっていた萩市郊外の山中の水辺を訪ねることにしました。（わが身を振り返り、以後こうした外出は控えることにしています。）

◆畳ヶ淵◆ （たたみがふち）

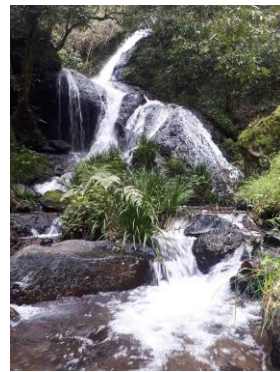


70 cm大の亀甲状の石畳が広がる。
浸食作用で滝は徐々に後退していく。

伊良尾山（いらおやま）の噴火による溶岩流が、急激に

冷え固まる過程でひび割れた玄武岩の柱状節理が見られます。両岸に柱状の岩壁、河床に亀甲状の石畳という圧巻の光景となっています。

◆道永の滝◆ （どうえいのたき）

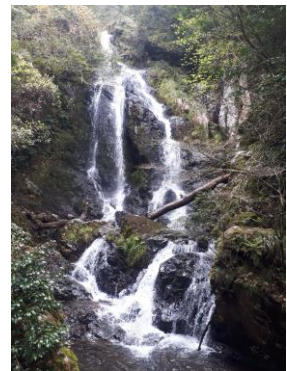


戦国時代に、陶晴賢の残党が山伏となってこの地に逃れたといわれ、その子孫が滝つぼのそばの洞穴に黄金の茶釜を隠したという伝説があります。ちなみに、湧き水を源としているため、水温は一年を通じて一四度前後なのだそうです。

↓陶晴賢（すえはるかた）

戦国時代の武将。大内氏の重臣として武勇と軍事的才覚を発揮したが、大寧寺の変で主君の大内義隆を討つ。その後、厳島の戦いで毛利元就に敗北し自刃した。

◆扇子落滝◆ （おうぎおとしのたき）



名前の由来は、狩りの途中に通りがかった殿様が、壮観な眺めに感動して手にした扇を落としてしまったとか、滝のそばにいた美しい娘に目を奪われて落としたとか、滝の流れが白扇を逆さにしたように見えるからとか、諸説あるようです。遊歩道が整備されていますが、谷底まで下るかなりきつい道のりでした。

◎平成の名水百選 三門戸湧水・阿字雄の滝

◆三門戸湧水◆ （みあけどゆうすい）

阿武火山群の羽賀台（安山岩の溶岩丘）の天然のフィルターでろ過された湧き水。昔から農業用水としても使われ、この地域の簡易水道の水源にもなっています。

↓平成の名水百選とは？

昭和六〇年に選定された名水百選に加え、平成二〇年に新たに選定されたもの。



中央奥の石の下などから
こんこんと水が湧き出す。

◆阿字雄の滝◆ （あじおのたき）



阿武火山群の羽賀台のふもとにあり、玄武岩による柱状節理を落ちる珍しい滝です。

江戸時代初期から明治四年まで、傍らに弘誓寺（くぜいじ）がありました。現在は観音堂がひっそりと建っています。なお、苔に覆われて見づらいますが、滝下の巨岩には、萩

の儒学者和智東郊の漢詩が浮彫されています。

日上林戀入畫図
畳成素練掛崎嶇
請看石上題詩處
字々與流飛作珠
宝曆十三壬午閏孟夏 東郊

（和訳は宿題か…）



浮彫された和智東郊の詩、
写真では判りませんね。

↓和智東郊（わちとうこう）

毛利家の家臣、儒学者。江戸留守居役などを務めた。藩校明倫館の創設に関わった山県周南門下三傑の一人。ちなみに、周南は「明倫館」の命名者でもある。

滝の多い町で育った私は、滝のある風景に癒しと親しみを感じます。コロナ禍が落ち着き、安心して外出できるようになったら、さらに広域の滝を目指してみたいです。